

安全で安心して暮らせる 「さがみはら」の実現に 向けて



相模原市消防局長 青木 浩

相模原市は、神奈川県の中西部に位置し、北は東京都、西は山梨県と接しており、戦後生まれの都市では初めての政令指定都市です。県内最高峰である蛭ヶ岳や県民の水がめである相模湖・津久井湖・宮ヶ瀬湖などの豊かな自然と都市機能を併せ持ち、「潤水都市さがみはら」がキャッチフレーズとなっています。

東京都心からのアクセスも良く、令和9年には超高速で品川と名古屋を結ぶリニア中央新幹線の神奈川県駅(仮称)がJR橋本駅付近に設置されるほか、JR相模原駅北側にある米軍基地の一部約17haが返還された相模総合補給廠一部返還地等の活用、小田急多摩線の延伸構想など、様々な大規模プロジェクトが進行中です。

こうした大きなポテンシャルを生かすため、橋本駅周辺地区は「産業の活力と賑わいがあふれる交流拠点」、相模原駅周辺地区を「安全とゆとりのある文化・行政が集積する中枢業務拠点」として、首都圏南西部全体の成長の源泉となる「未来を拓く さがみはら新都心」の形成に向けたまちづくりを進めています。

さて、相模原市消防局は、「72万人市民が安全で安心して暮らせる都市さがみはら」の実現に向けて昨年4月1日現在、1局6課4消防署15分署1出張所1派出所、職員778名、消防団1団6方面隊34分団106部1,489名が一体となって、消防行政を推進しています。

本市の救急出場件数は依然として3万件を超え、高齢社会を迎え今後も救急件数の増加が見込まれており、昨年4月には、相模原消防署本署に新たに日勤救急隊を配備するなど救急需要への対応を図ったところです。

近年の災害発生状況を顧みますと、自然災害が国内外で多発しており、市民生活に大きな影響を及ぼしています。本市におきましても、昨年10月の台風第19号では、記録的な豪雨により多数の尊い人命と財産が失われました。また、首都直下地震や南海トラフ地震等の発生による大規模地震災害も危惧されています。さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、自転車競技のロードレースで本市の一部がコースになるなど、国際的な大規模行事を控えているため、テロ災害に備えた実践的な訓練や必要な資機材等の整備を進めてまいります。

また、近年、職員の大量退職に伴い、大量採用が続く中、経験の浅い若手職員の割合が急増するなど、職員構成に変化が生じており、消防活動の知識や技術の習得と継承を確実に進めることが肝要であると考えております。この様な認識のもと、引き続き人材の育成に努めながら、市民一人ひとりの生命・財産を守り「安全で安心して暮らせるまちの実現」に向け、職員一丸となって業務に取り組んでまいります。